

DA・M インプロヴィゼーション Theatrical Improvisation ~for resistance

アルク / Walking

2014

今、ここ、を、かき乱す、束の間の肉体と精神の興奮

“Aruku” is fleeting excitement of body and mind, stirring up this time and place.

2014.3.18 tue~22 sat Proto-Theater プロト・シアター

監修・演出 Director

大橋宏 Hiroshi Ohashi

構成・出演 Performer

中島彰宏 Akihiro Nakajima

原田拓巳 Takumi Harada

宮地成子 Nariko Miyaji

小椎尾久美子 Kumiko Kojio

+

洪承伊 Hong Seung-Yi (Korea)

梁天尺 Leung Tin Chak (Hong Kong)

助成 supported by

日本芸術文化振興基金 JAPAN ARTS Council

企画・制作 produced by

DA・M



芸術文化振興基金

アーク / Walking

2014.3.18 tue-22 sat Proto-Theater プロト・シアター

● 構成・出演 performer 中島彰宏 Akihiro Nakajima (Theater)
 原田拓巳 Takumi Harada (Dance)
 宮地成子 Nariko Miyaji (Theater)
 小椎尾久美子 Kumiko Kojo (Dance)
 + 洪承伊 Hong Seung-Yi (Theater, from Korea)
 梁天尺 Leung Tin Chak (Theater, from Hong Kong)

● 監修・演出 director 大橋宏 Hiroshi Ohashi

● 舞台美術 set designer 吉川聡一 Soichi Yoshikawa
 山崎久美子 Kumiko Yamazaki

● 舞台監督 stage manager 大澤竜太 Ryuta Ohsawa
 ● 通訳 translation チェキュハ Chekyuha
 ● 翻訳協力 translation James Ferner

● 協力 cooperation 松島仁美 Hitomi Matsushima
 美保 Miho
 今井あゆみ Ayumi Imai
 遠藤徳恵 Norie Endo
 比屋定尚美 Naomi Hiyojo
 大橋いくみ Ikumi Ohashi
 阿狩屋 Akariya

● 照明 lighting 原田隆司 Ryuji Harada
 ● 宣伝美術 poster design 中村和夫 Kazuo Nakamura
 ● 記録写真 photography たしまひろよし Hiroyoshi Takishima PLASTIC RAINS
 ● 記録ビデオ recording video 南越谷メンタルクリニック / 飯島毅
 ● プロト・シアター支援 新生産業 (株) / 佐藤照・渡部美保
 ● 制作協力 work assistance 霜村和子 Kazuko Shimomura
 ● 助成 supported by 日本芸術文化振興基金 JAPAN ARTS Council
 ● 企画・制作 produced by DA・M

● 日時 date 2014.3.18 tue~22 sat / 19:00 start

● 会場 place プロト・シアター Proto-Theater

● 料金 ticket 当日 doors ¥3000 / 前売り adv. ¥2700

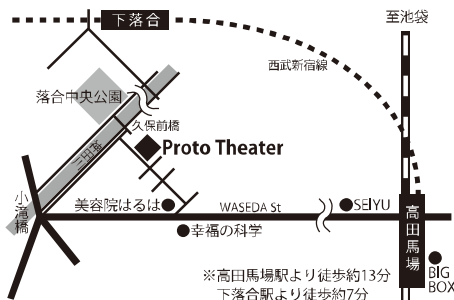
● 予約・問合せ Tel&fax 03-3360-6463 / 03-3368-0490

reservation & information E-mail: dam@mbh.nifty.com

● アクセス access http://www.dam-theater.com
 (※メールでのご予約は、お名前、日時、枚数、をお知らせください)

JR高田馬場駅「早稲田口」
 地下鉄東西線「2番出口」を出て、
 正面の「早稲田通り」を小滝橋方面へ、
 進行方向の右側を13分ほど歩く。
 [クローネコ宅急便]を過ぎて
 次の角を右に曲がり、
 二股を左に入り30m、

劇場直連 03-3368-0490



DA・M

1986年設立。拠点とするオルタナティブ・スペース<プロト・シアター>にて、一貫して、今、ここ、に立つ丸腰の身体から生み出す、断片的な動き・声・言葉を用いた脱演劇的な身体作業を継続。言語の壁を越えた無国籍的な舞台を展開。同時に、ジャンル、国籍の枠を越えたアーティストたちとの実験的な共同作業を多数企画。近年は<身体的な即興行為の発掘と組織化>による独自作品にて国内外のフェスティバルに参加。時代に排除されていく“生”を見つめる批評的な創作活動を続けている。また1997年よりアジア舞台芸術交流活動の促進を目指す<Asia meets Asia>を率先し、アジアのアーティストたちとの交流活動を深めている。

出演者
小椎尾久美子
 パフォーマンスユニット「Bebe⇒ビビ」メンバー。多様な企画作品に出演、主にダンスを用いた身体表現を続ける。今回は沢山アルク。2011年よりAsia meets Asia, DA・Mに参加。今回は「一体何処へ行く?」でもその後は大好きなハイボールで一息。そしてまた歩く。

宮地成子
 熊本生まれ。2001年から劇団黒テントに所属。劇団活動を拠点に、他団体のセリフ劇や身体パフォーマンスにも参加。今回 DA・M 初参加。“刹那をあなたと一緒に”と年毎に願いつつアルクも、刹那はいつも私の前を逃げていく。刹那は何処に?

Leung Tin Chak
 1984年舞踏家宇野萬氏に師事。1990年からソロ活動開始。香港舞台芸術アカデミーと活動する。2000年代から「劇団 DA・M」(開座)、多数の舞踏家やアーティストと活動する。2000年代から「開座」[アジア・ミーツ・アジア]の作業を中心に活動。また一つ歳をとる。この空虚な身体、削いで、無防備な生がおもてなしてもなく歩きつづける。香港舞台芸術アカデミーにて演技を学ぶ。ジャッキー・チェンチャリティ基金等の奨学金にて、ヨーロッパおよびアジア各国にて多数の外国演出家と様々な舞台創作を経験する。他太極拳、永春拳、ヨガ、靈氣、音叉等一心一徳を實踐する。一昨年香港でアルクを観て今回初歩き。東京にも民家の庭先に同じ景色がある。

Hong Seung-Yi
 労働活動家を経て、2000年 Labour Culture Art Troup ILTER に演劇活動を開始。2008年劇団 SHIM を釜山に設立。近年は、イスラエルや台湾の演出家の公演に携わる。DA・Mには昨年に引き続き2回目。釜山自宅周辺の山道をいつも歩いている。東京にも民家の庭先に同じ景色がある。

中島彰宏
 2000年劇団 DA・M に入る。Asia meets Asia 参加。ソロ公演、美術家とのコラボレーション活動も徐々に増加しているが、現在はプロト・シアター運営とともに看板強ミューを溺愛している。今年「歩行」では、未知の貴方に捨身の愛を捧げる。誰か受け取ってね!



Arukuは、今、ここ、を、揺さぶり、かき乱す、束の間の肉体と精神の興奮・覚醒である。停止と再開を繰り返すドラマのないドラマ——アクションに逃げ込むな、自己に安んずるな、思想に委ねるな——行ったり来たり<反復歩行>が、隠れていた生を証していく。
 “Aruku” is fleeing excitement / arousal of body and mind, disturbing here and now.
 Drama with no drama repeating its starts and stops -- Do not escape into fiction. Do not rest content with self. Do not trust to thought. -- Do not escape into
 < Ceaselessly walking, coming and going > will bear witness to hidden life.